

平成 29 年度 一般社団法人 沖縄県がん患者会連合会 年間事業報告

離島がんフォーラム （宮古島・久米島・石垣島）

第 5 回宮古島 平成 29 年 7 月 2 日（日）

開場/ 9 : 30 開演/ 10 : 00 ~ 12 : 00

場所 : 働く女性の家/ 宮古島市平良下里 442

対象 : 関心がある方/ 参加費無料/ 参加申込不要

第一部 教育者の立場から 10 : 00 - 11 : 00

◆『いのちの「土台」を豊かなものに～子どもとともに「死」を見つめ、「生きること」を考える～』

琉球大学 教育学研究科准教授 村末勇介氏

第二部 当事者の立場から 11 : 00 - 12 : 00

◆『第 2 の声を取り戻す』

沖縄県友声会（音声機能障害患者の会） 目 彰彦氏

*** 講演会終了後、食道発声指導者養成講習会と相談会を開催。（講師：田名勉） 12 : 00 ~ 13 : 00 ***

◆『死ぬも生きるも 100%』全開。

なね～ずの会/ 八重山のがん患者支援をするやいまゆんたく会 黒島富士子氏

助成： 沖縄県がん患者等支援事業助成金活用事業

後援： 久米島患者会準備会/ ～八重山のがん患者支援をする～やいまゆんたく会/ なね～ずの会（石垣がん患者会）/ 友声会八重山支部/ 沖縄小児がん経験者支援の会/ ゆうかぎの会（宮古がん患者会）/ 友声会宮古支部/ オストミー協会宮古支部/ まんまみやこ（乳がん患者会）/ 正力厚生会がん患者助成事業/ 県

社協民間福祉助成金/ 沖縄総合医療学院



○宮古島（2017 年 7 月 2 日 日曜日）

フォーラムに寄せ

・村末先生のお話しは子供たちに関わる職種の方に是非聞いて頂きたかった。

・とても役に立ちました。

・患者（当事者）のお 2 人の体験談に生きる力を貰いました。

患者さんたちの会の力、経験者の力や生きる知恵をもっと活用したがん療法支援を願う。

・これからの自分の生き方についていろいろ勉強になりました。

・村末先生の「命の授業」の大切さ、生きること、死について考えるなど、子供たちにとってすごく大切なことだと痛感しました。

- ・当事者のお話もがんを受け止め、一生懸命生きている事を素晴らしいと思いました。お二人のお話を聞いて元気が出ました。有難うございました。
- ・看護師ですが、がん患者さんの思いをじっくり聞く機会がなかったので、今日は大変貴重なお話を聞かせて頂きました。
- ・沖縄は戦争があった唯一の県で、命の大切さを 1 番感じていると思うので、病気とも繋がるし学べる機会として「命の授業」が必要である。
- ・勇気を頂きました。
- ・村末先生のお話し⇒教育者の立場から心温まる講演を素晴らしいと思いました。
- ・目さん、黒島さん⇒体験発表、たくましくエネルギーに日々送られている事に感動しエネルギーを貰いました。
- ・大変良かった。もっと多くの方に参加し聞いて欲しい内容でした。
- ・とても良かった。もう 1 度聞きたいお話しでした。
- ・体験者の声は心に響き、感動しました。
- ・10 人 10 色とは言いが、病を抱えてなお皆様良く頑張っていると思います。
- ・良かった【感動しました】の一言です。
- ・「命の授業」から命の教育の大切さを再度考えさせられました。
- ・目さん、黒島さん 1 日一生を最善に生きていらっしゃる。経験者のこのようなお話をもっと聞ける機会、（講演の数）を増やして欲しい。
- ・命の教育を実際に受けてみたいと思いました。

第3回 久米島開催 平成 29 年 11 月 5 日（日）

開場/9：30 開演/10：00～12：30

場所：久米島町具志川農業環境改善センター/字仲泊 730

対象：関心がある方/参加費無料/参加申込不要

第一部 教育者の立場から 10：00-11：00

◆『いのちの「土台」を豊かなものに ～子どもとともに「死」を見つめ、「生きること」を考える～ 』

琉球大学 教育学研究科 准教授 村末 雄介氏

第二部 地域の立場から 11：05-11：25

◆『みんなに支えられて』 ～久米島に生きて、生かされて、生きる～

沖縄県女性農業士・久米島町字大原老人会会長・球美の彩代表（加工）/ ジュニア野菜ソムリエ

JA 沖縄久米島支店 運営委員・JA 沖縄久米島支店 総代 渡慶次 春子氏

第三部 医療者の立場から 11：30-12：25

◆『最後まで自分らしく暮らすために、島だからこそできる地域との連携について』

助成：沖縄県がん患者等支援事業助成金活用事業

後援：久米島患者会準備会/～八重山のがん患者支援をする～やいまゆんたく会/なねーずの会（石垣がん患者会）/友声会八重山支部/ゆうかぎの会（宮古がん患者会）/友声会宮古支部/オストミー協会宮古支部/まんまみやこ（乳がん患者会）/沖縄統合医療学院/沖縄小児がん経験者支援

協賛：沖縄県社会福祉協議会/沖縄県身体障害者福祉協会



○久米島フォーラム（2017年11月05日 日曜日）

フォーラムに寄せられた感想

- ・ 中学校の教師をしています。村末先生の「命の授業」聞いて是非久米島の子供たちに聞いてもらいたいと思いました。島の子供たちはどうしても切磋琢磨の思いが湧き難かったり、本気でやる気を起こす機会が少ない為、勉強に向かう姿勢が低く、無気力な子が多いので、このようなお話しで、本気スイッチ、やる気スイッチが入るきっかけになって欲しいと強く思いました。
- ・ 様々な分野で島の為に頑張っている方々のお話しに「私もできることをやるぞ」と思いを強くしています。
- ・ これまであまり聞く機会のなかった「命の授業」とても良かったです。
- ・ 公立病院の発表は身近な医療機関としてとても良かったです。
- ・ 「生きることは死を繋ぐこと」など柔軟な考え方や思いを語ることの大切さと勇気を貰いました。
- ・ 患者さんの声が聴けたことはとても良かったです。
- ・ 生きる活力がわいた。生きている幸せ、自分の役割を再認識できました。
- ・ 60代に入って自分の人生を振り返ることが増えてきたのですが、毎日の変わらない日常の中で「生きる」「いのち」等深く考えていなかった気がします。今日、改めて自分の人生、生き方、そして死に方を考える機会を与えて頂きました。「生きているだけでも意味があり、価値がある」という事を大切に静かに過ごせたらラッキーだと思っています。
- ・ 3人の講師のお話しが聞けて良かったです。
- 死...生きる教育に取り組んでいる姿に感動。
- ・ 自分の事を語る勇気に感謝します。
- ・ 公立病院の取り組みを有難く感じました。「平穏死」興味、共感があります。



- ・まさに実感！手ごたえのあるお話だったと思います。
- ・他人事ではないと痛感しました。
- ・本人の価値観に添った生き方をしたい、させたいと思いました。
- ・来て良かったです。子供たちにも聞いてもらいたいと思いました。

第5回 石垣島開催 平成29年12月3日（日）

開場/13：30 開演/14：00 ～16：30

場所：石垣市健康福祉センター /住所：石垣市登野城 1357-1

対象：関心がある方/参加費無料/参加申込不要

第一部 当事者の立場から 14：00-15：05

◆『第2の声を取り戻す』

沖縄県友声会（音声機能障害患者の会） 氏

＊ ＊ ＊ 講演会終了後、食道発声指導者養成講習会と相談会を行います。（講師：田名勉）16：10～17：00 ＊ ＊

◆『死ぬも生きるも100%全開。』

なね～ずの会/八重山のがん患者を支援するやいまゆんたく会 氏

第二部 医療者の立場から 15：10-16：10

◆『医笑同源』 まんま家クリニック 院長 久高 学先生

助成：沖縄県がん患者等支援事業助成金活用事業

後援：～八重山のがん患者支援をする～やいまゆんたく会/なね～ずの会（石垣がん患者会）/友声会八重山支部/ゆうかぎの会（宮古がん患者会）/友声会宮古支部/オストミー協会宮古支部/まんまみやこ（乳がん患者会）/久米島患者会準備会/沖縄小児がん経験者支援の会/沖縄統合医療学院

共催：沖縄県身体障害者福祉協会 **協賛：**沖縄県社会福祉協議会民間福祉助成事業

○石垣島フォーラム（2017年12月03日 日曜日）

フォーラムに寄せられた感想

- ・3人の講師の方のお話で、人生に対して共通して感じたことは、大切な人と自分の生き方を一緒に考えている事かと思う。
- ・体験談を聞くことで自分の情報の1つとして生活に生かしたいとおもう。
- ・自分の健康管理を考え、毎日生活したいと思います。
- ・笑いのある毎日を送ることの大切さを考えさせられました。

・ 笑うこと。女性に生まれて幸せだと思うこと。感謝すること。

・ 久高先生の講演にもっと多くの参加があれば良かった。勿体ない！！

・ 来て良かった。笑いは良い。生活のエネルギーになる。

・ 久高先生有難うございました。私も受診したいと思います。

・ 大変良かったです。お医者さんとも思えないお人柄でした。又お待ちしております。

・ まれに聞く最高の講演会でした。有難うございました。

・ 3人の講師のご講話、とても良い時間を頂きました。自分にできることを改めて考えてみようと思います。有難うございました。

・ 笑いの大切さが分かりました。すごく楽しい久高先生でした。

・ 笑い（笑わせること。笑うこと）で心が軽くなりました。

・ 病気を受け入れて、時に開き直ることも大事だと思った。

・ 体験者のお話を聞き、健康に留意していきたいと思いました。



他：委託事業外の患者会活動報告

北部移動サロン（2017年11月23日 日曜日）

・ 感動でした。目さん、石川先生のお話しはほんとに目からウロコの状態でした。

初めて耳にすることが多く、「がん」の事に対して理解を深めることが出来ました。

・ 生きる力を得ました。

・ 目さんのような努力の人生の方、石川先生のように慈悲の心を持っている方のお範氏が聞けて、心が洗われるようでした。どうも有難うございました。

・ 「がん」を今まで以上に理解できたのと検診の大切さを学べました。

・ 病気について、特に「がん」について大変参考になりました。

・ 友声会、目さんの一生懸命な語りが心に迫りました。

検診で見つけることが出来ずに悔しさはいかばかりかと思われまます。そこからの前向きな姿勢は後のように掴めたのか気になりました。

・ 石川先生のQ & Aの時間がもっと欲しいように思いました。

（沖縄の人は恥ずかしがりやが多いので、聞きたいことがあっても言えなかったのかと思います。）

・ 病気に対する早期発見の方法がいかに大切か、又、発表者の自分の目的を強く持って「がん」に取り組んでいる努力に感動した。友声会組織の活動で、がん患者に勇気を与えて下さい。

・ 病気すべてに対して参考になるお話が聞けてとても良かったです。

・ とても良かった。いろいろな形で参考になった。

・ 目さん、いろいろあっても前向きに生きていっしょることに学ぶことがとてもありました。

これからもより多くの方に伝えて欲しいものです。

- ・ 石川先生のお話しには非常に勉強になりました。内容も理解し易くもっと講義を受けてみたいと感じました。素晴らしいお話を有難うございました。
- ・ 当事者の貴重な体験が聞けてとても良い機会を得ました。是非多くの患者さんたちにも情報が伝わればと思いました。
- ・ 石川先生の患者さんへの深い思いがとても染み感動しました。

本連合会への要望、意見等

- ・ 毎年の継続活動に感謝。今後も宜しくお願いします。
- ・ これからも月に 1~2 回くらいの講演が必要だと思う。
- ・ がんの種類に必要な考え方等の講演
- ・ 県内の各患者会に多くの支援を行って頂ければ嬉しいです。
- ・ 今後もこのような活動を続けて欲しいです。
- ・ ネット会議の開催を考えて下さい。
- ・ フォーラムを又考えてください。
- ・ すべてのワークを受けたかったです。機会を作ってください。
- ・ どのような経緯を使って、学校での講演にお招きできるか判りませんが、是非実現への思いが強くあります。
- ・ 先生のお話しは解かり易く、島の学校でも子供たちに聞いてもらえたら良いのにと考えています。
- ・ 地域の行事等確認した方が良い。せつかくの講演会なのに出足が悪いようです。
- ・ がん体験者、専門医師、関係機関の方々のフォーラム計画に感謝します。

移動サロン（南部/浦添・北部/名護・離島/宮古・石垣島）開催

●移動サロン：（各年 1 回/本島南部・北部開催 / 離島宮古島・石垣島開催）

実施日：7 月 2 日/宮古島・9 月 30 日/南部（浦添）・11 月 26 日/北部（名護）・12 月 3 日/石垣島

場所：宮古島⇒働く女性の家ゆいみな〜・南部浦添市⇒沖縄統合医療学院Ⅱ号館

北部名護市⇒名桜大学・石垣島⇒石垣市総合福祉センター

成果：宮古島と石垣島の移サロンでは、固定サロンで定期的に行っているセラピーを開催。30 名以上の方々が参加され、さまざまなセラピーを体験を通して自身のカラダとココロに関心をもつ場を提供できた。患者会の集まりの中でピアサポート相談事業などにも取り組んでいるが、個人的相談だけに患者会に足を運ぶのを躊躇する患者当事者や家族に、患者会が開催するセラピーに参加してもらい、知識や技術を学びながら、療養中の様々な悩みや不安を話せる環境づくりに活かせるうとの声もあった。患者自身は自身の気持ちや体調へのケアに、又家族は介護疲れのカラダとココロほぐすのに良い機会が持てたとの感想が聞かれた。

浦添市、名護市で開催した当事者と医師や教育者、支援者の立場からの講話に、患者さんやご家族、地域の医療者や講話した患者さんのご近所の方々の参加がありました。

参加されたご家族の方から、『出会いを求めて行動すれば、このように皆さんとのご縁ができて、引きこもっていた本人は勿

論、家族も勇気を頂くことができ、出会いに生かされました。出会いは生きることですね！』とのお声がありました。

『生きる意欲は、自らの内部からひとりでの生まれるのではなく、それを期待して待っている人の存在によって引き出されるのではないか？』との石川清司先生講話の中のメッセージからも繋がるものがありました。一人でも多くの当事者と家族が、自助・共助の中で健全な療養生活が維持できるよう支援ができてきていると実感できた。

本島・離島患者会支援者（ピアサポーター）のメンバーを各、離島と本島移動サロンへ参加促進

- 7月2日/宮古島移動サロン 場所：宮古島/働く女性の家ゆいみな～
- 12月3日/石垣島移動サロン参加 場所：石垣島/健康福祉センター

成果：今回、初めての試みで開催した宮古島での移動サロンの開催に、石垣島の患者会と久米島の患者会準備会のメンバーも参加することができたことにより、現在の各患者会の活動の課題（特に離島の抱える運営状況）、当事者同士が活かしあえる運営の在り方について意見交換で、実際に様々な形式のサロン内容をロールプレイ体験して学びあうことができた。がんセンターの進めているピアサポート相談事業は、相談する側も特に離島だと、互いの顔が近すぎて、相談しづらいなどの声もあがっており、相談事業は専門職への架け橋を主とした知識や情報提供の方法を身に付け、ピアサポーターは、共に学んだり、自然に悩みを打ち明けられるような、互いに気持ちで動くなど自然な助け合い、交流環境が重要との意見が多くあった。そこでセラピー（マッサージのセルフケア、カラーセラピー）や健康体操（動作法やヨーガ）など皆で、ココロとカラダについて学びあえる活動を実施した。セラピーや運動を通して本人やご家族が自己の想いや体調について表出され、自然に互いを労わる語らいの中で、がん療養を支える情報交換の場を持つことができた。

本島固定型サロン開催

固定型サロン

- **実施日：**4月23日～12月10日（1回/月）日曜日に開催

☆ **場所：**浦添ショッピングセンター3階/ロイヤルコミュニケーション倶楽部内 **住所：**浦添市城間4-7-1

★4月23日・5月21日・8月20日

ココロとカラダがヨロコブ ケアセラピー『セルフトリートメント☆ハンド＆アーム』

講師：ダニエル・マードン先生/フィジオセラピスト（リンパドレナージュ/ハイドロセラピー専門家）

講師：高橋結子先生/リンパドレナージュ専門家（アロマセラピスト・ハーバリスト）

★6月18日・11月19日

ココロとカラダがヨロコブ ケアセラピー『笑い☆ヨガ』

講師：城間友香先生 ラフターヨガ国際認定リーダー

★7月23日・10月15日

ココロとカラダがヨロコブ夏（7月）/秋（10月）の養生ランチ会 /

定員10名 講師（7月）：柯 彬先生 中国医師（代謝内分泌専門医）

調理（7月・8月）講師（10月）：田本ひとみ先生 おきなわ薬膳美人

★9月17日・12月10日

ココロとカラダがヨロコブ ケアセラピー『カラー☆セラピー』

講師：豊見山喜美先生

成果：参加者は、3割が患者さんで残りは、支援者（家族含む）が多かった。1回の開催に多いときは、17名。少ないときで6名であったが、関心のあるセラピーを選択することで、患者さん同士、支援者も次は、このセラピーと一緒に、リピーターの方もいて、また会いましょうなど、顔なじみになり話も弾むことが多くなった。カラダやココロの声と大切に向き合う時間をそれぞれの立場で共有し、患者当事者が家族に感謝の想いを伝えたり、伝えたい想いを語ってくださったり、患者当事者が自分に向き合える空間

の提供、第3者を介して家族が患者に想いを伝える、支援者同士が相談したり語れる場を提供できた。

参加費を徴収することで、資料代や会場費、講師謝金を賄えるようになれば助成金以外に自己資金も投じての運営もしていけるのではないかという兆しを感じることができた。

●12月16日・17日/大阪、全国がん患者連合会主催がん患者学会参加

全国がん患者学会2017研修報告書 日程

1日目（12月16日）※全体会議

- ・第3期がん対策推進計画と都道府県がん対策推進計画についてゲノムを理解してがんと向き合う
- ・英国における病院評価や施設別データ等について

2日目（12月17日）※分科会

- ・より良い緩和ケアのために取り組むべきこと・がん対策推進計画の死亡減少目標について
- ・がん教育の現状と課題・ピアサポート

成果

- ・どのプログラムも今現在私たちが必要とし、課題解決に向けて取り組むべき情報が満載で大きな学びの場となった。
- ・全体会のがん対策推進計画については、国のがん対策に基づき沖縄県でも対策推進計画が進められているところなので、国、県共に患者に寄り添う形の計画が組み込まれるか注目すべきである。
- ・がんゲノム医療や病院評価の方法など、ドラッグラグとの関連や患者が満足できる医療の充実に向けての意識を持つことの重要性が分かり易く説明されていた。
- ・分科会においては、各都道府県の取り組み照会がなされ、特にがん教育は今後がん対策推進計画にも各都道府県での取り組みに大きな関わりが出てくる。
- ・地域行政（教区委員会）との連携や患者（当事者）のピアサポーター活動に直接結びつけられる養成や予算確保などの課題と実績報告など今後の活動に活かしたい内容がたくさんあった。